

北九州市立美術館 所蔵品データベースを公開!

美術館 ホームページにて、所蔵品のなかから選りすぐりの約240点の情報を検索・閲覧できるようにになります(公開日:日本語版 9月7日から/英語版 11月3日から)。

EVENT(イベント)

ピンポイント・ギャラリートーク

学芸員ならではの着眼点で、推し作品や注目ポイントを紹介します。
※会場全体のご案内はいたしません。

毎週日曜日 11:00～(20～30分程度)

会場=本館1階企画展示室受付、または
3階コレクション展示室受付のいずれか
(当日、館内放送にてご案内します)

※事前申込み不要(ただし、展覧会チケットが必要です)

《鉄の墳墓》特別公開

鉄の彫刻家・村岡三郎(1928-2013)が1987年に開催された「国際鉄鋼彫刻シンポジウム YAHATA '87」のために制作した《鉄の墳墓》。2023年に当館へ寄贈され、このたび、美術の森公園へ移設設置されました。日時限定で内部を公開します。

公開日=①10月19日(土) ②10月20日(日) ③10月26日(土)
④10月27日(日) ⑤11月2日(土) ⑥11月3日(日)
各日とも14:00～15:00(各日定員10名)

集合場所=北九州市立美術館 本館
1階エントランス

※参加無料
(ただし、展覧会チケットが必要
です)事前申込み制。
詳細は、美術館ホームページを
ご覧ください。

※雨天中止



村岡三郎《鉄の墳墓》1987/2023年
(2023年展覧会)

ゲキシビジョンX飛ぶ劇場

再演『切り裂かれたキャンパス～「マネとマネ夫人像」をめぐる』

2013年から2017年まで、美術館で演劇と美術鑑賞を同時に楽しむコラボ企画が、北九州市立美術館と北九州芸術劇場により制作されました。その第1弾として上演し好評を博した、エドガー・ドガ『マネとマネ夫人像』をめぐる推理劇を再演します。

公演日=2024年10月12日(土)、10月13日(日)、10月14日(月・祝)
各日2回公演(計6回公演) ※日時指定、全席自由 ※未就学児入場不可

会場=アネックス棟3階 レクチャールーム

作・演出=泊篤志

出演=内山ナオミ、葉山太司、文目卓弥

企画=飛ぶ劇場、
北九州市立美術館

制作=飛ぶ劇場

※有料公演(観覧料含)。
チケット予約等詳細は、
美術館ホームページを
ご覧ください。

※情報は変わる場合がございます。



『切り裂かれたキャンパス～
「マネとマネ夫人像」をめぐる』
(2019年)

ワークショップ「美術館で [] する人」

来場者、鑑賞者、参加者、学芸員、監視員。美術館には、さまざまな役割を持った人々がやってきます。「参加する人」や「見に来た人」の役割を書き換えながら、美術館での過ごし方や、展示作品との関わり方について考えるワークショップです。

日時=2024年9月8日(日) 10:00～12:00

アーティスト=中島佑太

集合場所=本館2階 エデュケーションルームB

対象=子どもや大人20名

参加方法=美術館ホームページの参加申込みフォームからお申込みください。

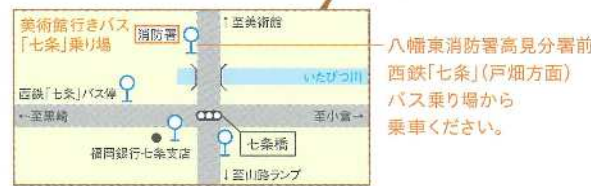
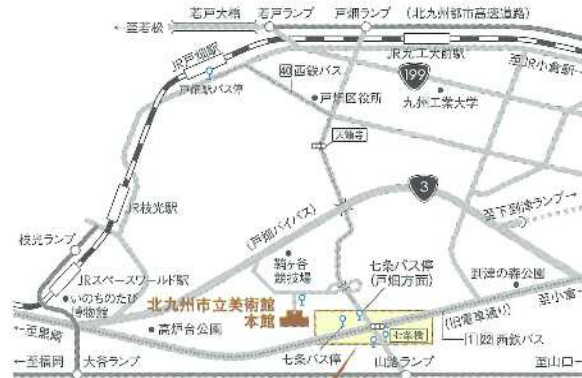


◎交通案内

- 西鉄バス
市内各地より「七条」で下車、「七条(戸畑方面)」(八幡東消防署高見分署前)から7M番(製鉄橋横門行き)に乗車、「北九州市立美術館」で下車(所要6分)。
- JR小倉駅より
小倉駅入口(JR小倉駅からモノレールに沿って行き、小倉駅前立寄点を渡って右、徒歩5分)から西鉄バス7M番(箱ヶ谷方面行き)に乗車、「北九州市立美術館」で下車(所要30分)。
- JR戸畑駅より
戸畑駅から西鉄バス7M番(砂津行き)に乗車、「北九州市立美術館」で下車(所要25分)。

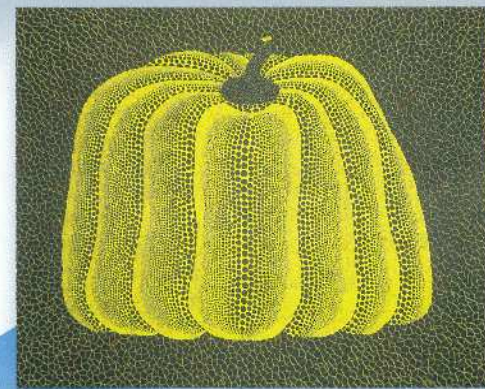
北九州市立美術館 本館 (2017年リニューアル) 1974年開館(設計:磯崎新)

- 高速バス
「西鉄天神高速バスターミナル」から高速バス「いとうごう(小倉方面行き)」に乗車、「七条」で下車(所要1時間20分)。「七条(戸畑方面)」(八幡東消防署高見分署前)から57M番(製鉄橋横門行き)に乗車、「北九州市立美術館」で下車。
- 車
北九州都市高速道路:山路ランプから車で8分。
- タクシー
JRスペースワールド駅・JR桜光駅より乗車、「北九州市立美術館」で下車。



北九州市立美術館 本館
Kitakyushu Municipal Museum of Art

〒804-0024 北九州市戸畑区西箱ヶ谷町21-1
TEL 093-882-7777 <https://www.kmma.jp>



ドガ、
ルノワール、
バスキア、
草間彌生…
名作とたどる半世紀

北九州市立美術館開館50周年記念 KITAKYUSHU MUNICIPAL MUSEUM OF ART THE 50TH ANNIVERSARY EXHIBITION

大コレクション展
—あの時、この場所で。—

Degas
Renoir
BASQUIAT
YAYOI KUSAMA
AND MORE

2024

9/7(土)-11/10(日) 休館日 月曜日(ただし月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館)

一般 1,500(1,200)円 高大生 1,100(800)円 小中生 900(600)円

※()内は前売りおよび20名以上の団体料金。なお障害者手帳を提示の方とその同伴者1名(身体障害者手帳については等級が1～4級の場合に限る)は無料。北九州市在住の55歳以上の方は2割減免(公的機関発行の証明書等の提示が必要)。※前売り券は、オンラインチケット(北九州市立美術館ホームページより)、ローソンチケット(ローソン、ミニストップ)、チケットぴあ(セブン-イレブン)、セブンチケット(セブン-イレブン)、e+イープラス(ファミリーマート)、小倉井筒屋、北九州モノレール主要駅などで販売。※オンラインチケット、デジタルチケットは展覧会開催中は当日料金の販売となります。

主催 | 大コレクション展実行委員会(北九州市立美術館、毎日新聞社、読売新聞社、テレQ) 後援 | 九州旅客鉄道、西日本鉄道、北九州モノレール、筑豊電気鉄道

北九州市立美術館 本館 TEL 093-882-7777
Kitakyushu Municipal Museum of Art <https://www.kmma.jp>
〒804-0024 北九州市戸畑区西箱ヶ谷町21-1

1970

新美術館建設に向けて



に向けて

1970年から新美術館建設に向けた動きが起こり、当館の前身である北九州市立八幡美術館でも新美術館のための本格的なコレクション収集が始まりました。本作をはじめ、海老原喜之助《靴屋》(1955年/1972年度購入)、中村研一《車を停む》(1932年/1973年度購入)などの近代美術史上、重要な九州出身画家たちの作品を収集し、今日の当館コレクションの基盤となっています。

児島善三郎
《スペイン装の高田せい子像》
1929年 (1970年度購入/
北九州市立八幡美術館時代)

1974



開館の目玉作品 謎多き 《マネとマネ夫人像》

画面の右三分の一が切れられ空白のキャンバスが継ぎ足された、謎めいた作品です。一説に、ドガがこの作品を贈られたものの、妻の描写が気に入らなかったマネが切り取ってしまい、怒ったドガは本作を持ち帰ったといわれますが、定かではありません。川崎造船所(現川崎重工株式会社)初代社長 松方幸次郎のコレクションであったこの作品は、1974年、北九州市立美術館の開館にあたり目玉作品として購入され、当時話題になりました。当館を代表する作品です。

エドガー・ドガ《マネとマネ夫人像》
1868-69年
(1974年度購入)

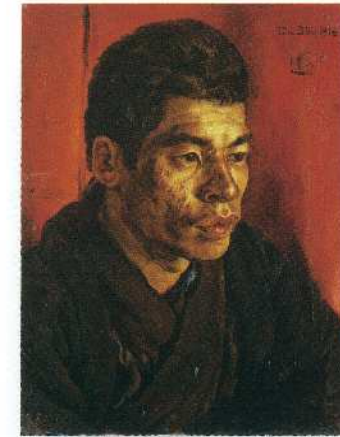
1970-80's



北斎、国貞、国芳... 浮世絵、一括寄贈される

当館コレクションの一角を占める約1300点もの浮世絵版画は、その大半が故田村専一郎氏(元九州大学名誉教授)のコレクションで、1976年から77年にかけて一括寄贈されました。更に1987年度には福岡県内の篤志家より10余点の寄贈をいただきました。喜館北斎をはじめ、溪斎英泉、歌川国貞、国芳、広重、豊原国周、月岡芳年など、江戸後期から幕末明治の浮世絵版画が充実しています。

葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》1831-34年 (1976年度寄贈)



企業・個人からの応援

当館コレクションの特徴として、地元企業や市民の皆さんからの支援があげられます。この作品は、1984年、地元北九州市に拠点を置く東陽機器株式会社(現TOTO株式会社)から寄付金を得て購入しました。このほか、新日本製鐵株式会社(現日本製鉄株式会社)からパブロ・ピカソの版画「ヴォワールのための連作集」、住友金属工業株式会社(現日本製鉄株式会社)からジョルジュ・ルオー《アルルカン》を、また個人の方々からも支援をいただいています。

岸田劉生《Tの肖像》1914年 (1984年度購入)

1993

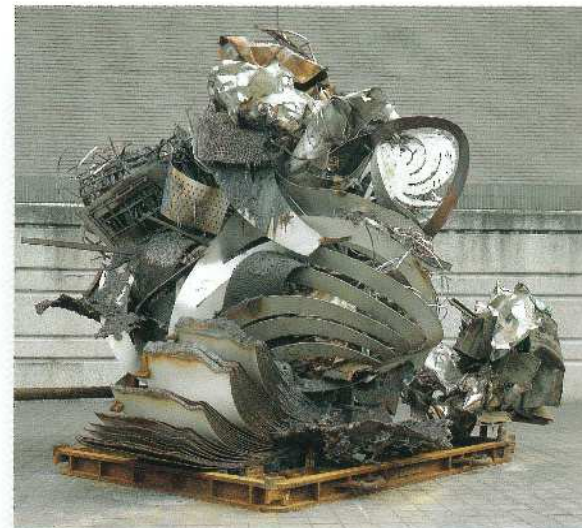
開館20周年記念 モネ晩年の「睡蓮」

クロード・モネ《睡蓮、柳の反影》1916-19年
(1993年度購入)



モネ晩年の「睡蓮」

1993



© 2024 Frank Stella / AFS, New York / JAGP&L, Tokyo 00293

「鉄の街・北九州」の モニュメント

1993年、北九州市制30年を記念して開催された「ザ・リサイクル 第2回国際鉄鋼彫刻シンポジウム'93」で制作された作品です。「リサイクル」のテーマにちなみ、作品素材の一部は市民が集めた空き缶を使用し、地元企業である新日鐵八幡製鐵所(当時)の全面協力を得て制作された。まさに「鉄の街・北九州」を象徴する大型モニュメントです。北九州市立美術館アネックス棟の入口に設置しています。

フランク・ステラ《八幡ワークス》1993年
(1993年度購入)

2004

開館30周年記念 坂本繁二郎 前半生のモチーフ“牛”の大作

坂本繁二郎《海洋の牛》1914年 (2004年度購入)



2023



開館50周年記念 三沢厚彦の木彫刻シリーズ 「ANIMALS」

三沢厚彦
《Animal 2016-01》2016年
(2023年度購入)

北九州市立美術館開館50周年記念 KITAKYUSHU MUNICIPAL MUSEUM OF ART THE 50TH ANNIVERSARY EXHIBITION

大コレクション展 — あの時、この場所で。 —

美術館の歴史は、すなわちコレクション形成の歴史です。

1974年11月3日、北九州市立美術館は西日本における大規模な公立美術館のさきがけとして開館しました。

当館は、1974年の開館よりもっと昔、前身である八幡市美術工芸館(1958年開館、のち1963年に北九州市立八幡美術館と改称)のコレクションを引き継ぎ、さらに近現代美術を主とした収集を続けています。

これまでに約8000点の美術作品を収集・保存し、それらの研究成果として、数々の展覧会を企画開催してきました。

本展は、開館50周年を記念して、半世紀にわたるコレクション収集のあゆみを体系的に振り返るものです。

当館のコレクションがどのような経緯のもとで形づくられ、どのような特徴をもつのか、選りすぐりの作品から紐解きます。

また、美術館のコレクションのあゆみは、美術館を訪れた人々の、作品との出会いの記憶の集積でもあります。

「あの時、この場所で」出合った作品との再会、そして新たな出会いから、

当館コレクションの魅力を変えて感じていただける機会となれば幸いです。

EVENT(イベント)

記念講演会

2024年9月7日(土)
13:30~15:00(開場13:00~)

演題=「丘の上の双眼鏡」の半世紀

講師=後小路雅弘(北九州市立美術館館長)

会場=アネックス棟3階

レクチャールーム(定員80名)

※聴講無料。事前申込み不要。

当日10時より1階インフォメーションにて整理券配布。

開館50周年記念シンポジウム「山の上の美術館サミット」

2024年9月14日(土) 13:30~16:00(開場13:00~)

今日、美術館を取り巻く社会状況は大きく変化し、美術館に求められるものも多様化するなかで、美術館は改めてその存在意義を問われています。

本シンポジウムは、全国の山の上/丘の上に位置する美術館の館員5名が登壇し、山の上/丘の上に立地する美術館ならではの特徴や魅力、また立地ゆえの課題を克服する戦略や工夫について共有し、今後の美術館のあり方について展望を語り合います。

※聴講無料。事前申込み不要。

当日10時より1階インフォメーションにて整理券配布。

パネリスト=

木下直之(静岡県立美術館館長)

寺口淳治(広島市現代美術館館長)

菅章(元大分市美術館館長)

林田龍太(熊本県立美術館学芸普及課長)

後小路雅弘(当館館長)

会場=アネックス棟3階

レクチャールーム(定員80名)

掲載している作品はすべて当館蔵